

薬科大と企業が共同開発

穏やかな便秘改善の健康食品



「沈香」の葉を使って産学共同開発した健康食品を説明する(左から)岐阜薬科大学の飯沼教授、アビの野々垣社長、同大の原教授—岐阜市役所で

原教授は「沈香の葉を使った食品は、マイルドな効能が期待できる。マウスやウサギなどの動物実験だけでなく、人の臨床試験で安全性を確認できたことが大きい」と説明している。【立松勝】

出可能な)人工栽培の沈香を現地調達し、安定供給する。医薬品としてはなく、生活習慣病の便秘に悩む人たちが安全に飲める健康食品の開発につなげる。(ティーバッグの)お茶に葉を入れて煎じて飲むこともできる」と話す。

岐阜薬科大学(勝野真吾学長)と健康食品・医療振興機構(JST)の薬品メーカー「アビ」(岐阜市、野々垣孝彦社長)は、東南アジア原産の希少植物「沈香」(シンチヨウゲ科)の葉を原料にした、便秘を穏やかに改善する作用のある健康食品を開発したと発表した。今後、「岐阜発」の健康食品として商品化を目指すほか、国の特定保健用食品の認可も視野に入れる。

独立行政法人、科学技術振興機構(JST)の資金援助を受けて、07年12月から4年をかけて開発した。同大・薬効解析学研究室の原英彰教授(54)と生薬学研究室の飯沼宗和教授(64)が、沈香の葉の成分を抽出して100人以上の人体臨床試験を行い、下痢などの症状が少なく、小腸にゆるりと持続的に効いて便秘を改善する作用を確認した。この研究成果を基にアビが飲料剤、粉末剤、錠剤などを開発した。飯沼教授によると、沈香はタイ、ミャンマー、ベトナムなどが原産の輸出禁止の希少植物という。野々垣社長は「(輸出可能な)人工栽培の沈香を現地調達し、安定供給する。医薬品としてはなく、生活習慣病の便秘に悩む人たちが安全に飲める健康食品の開発につなげる。(ティーバッグの)お茶に葉を入れて煎じて飲むこともできる」と話す。

「特保」認可も視野に 希少「沈香」の葉原料

【立松勝】